

環境づくり

(1) 学生との3大約束

- ①怒られません
- ②成績がありません
- ③授業に出る出ないは自分で決めます

安全・安心な環境が続くと、人間はほっこりとするものです。怒られない環境や数字で評価されない環境を大事にしていると、学生はのびのびと過ごすようになります。

また、学生の成長につながるように、専門の講師陣をそろえ、素晴らしい教科的授業を展開してもらっています。もったいないことにその授業をサボる学生がいます。でも高等部までにサボったことがない学生がほとんどで、本当は嫌な授業でも無理やり参加してきた人も多くいるでしょう。自分の不安な気持ちや、好き嫌いの気持ちを感じ、自分で調整していく経験は、将来につながる大事な力になっています。

(2) 学生の成長・発達の視点

- ①人との距離感がわかる（感じられる）か、自分の居場所がある（見つけられる）かの視点
- ②ヒマな時間を心地よく（安定して）過ごせる方法を見つけれられているかの視点
- ③とにかくバカげたことに付き合うか、そのことが楽しいと思えるかの視点
- ④自己決定・自己選択しているかの視点
- ⑤自分の成長を感じて、自己評価をしているかの視点
- ⑥家で家族にも話さないことを、支援員に何でも相談するようになるかの視点

以上のような視点で成長を見ます。職員会議や朝の打合せなどで学生の変化を語り合い、成長を喜び合います。

(3) “指導”ではなく“しかけ”がいっぱい。そして、“総合力”で向き合う

“指導”は、支援者が各個人に対してまだ達成できていない新しい目標を定めて、達成できるように支援環境を整えていくものだと思います。つまりまだできていないところに注目することが中心になりがちです。

それに対して“しかけ”は、各授業や活動のすべてに対して、自分が主人公になって楽しんだり参加したりすることにより、今ある自分が基本となり、自己の成長の手ごたえを感じながら成長していけるようにするものです。

つなぎでは、そういうしかけがいっぱい準備されており、支援者から積極的にしかけていくことも多くあります。

つなぎの支援者は、“怒ること”が許されていません。学生の疑問や悩みに“すぐ応える”こともしてはいけないことになっています。そのためとても高度な支援力が必要です。学生一人ひとりのニーズや悩みを共有し、一緒になって悩み、解決のための手段を探っていくことが中心です。

ある学生の悩みにとことん付き合ったエピソードがあります。彼は頭の中にいっぱい情報があり、聞いてもらいたくて仕方がありません。いつも聞いてもらえない不安で頭がいっぱいになっています。話し出すと同じことの繰り返しも含めて話が長くなりがちで、これまで10数年間めんどくさがられ、いつも中途半端にしか聞いてもらえなかったようです。そこに施設長がとことん付き合い毎日2時間！とにかく話を聞き続け、数週間たったある日、満足したのか「今日は30分でいいわ。」と自分で話を短くする日

も生まれました。 *詳しくは『2部』に記載

本当に粘り強い支援のひとつです。まわりの支援者も連携をとりながらすすめてきた“総合力”が彼の人生を大きく変えたと思います。事務や管理職も一体になってしかけていく“総合力”こそがつなぎの支援の大きな原動力です。